



8:10 朝礼でこの日の作業の注意点などを訓示する



9:00 補修工事の状況を報告するために写真を撮影



13:00 それぞれの作業責任者が集まる「職長会議」を取り仕切る



14:00 水漏れ防止工事の目地部分の作業を確認する

心遣いと粘り 「けんせつ小町」

「けんせつ小町」。建設・土木工事の現場などで活躍する女性技術者に日本建設業連合会が名付けた愛称だ。県内でも「小町」は活躍中。熊本赤十字病院(東区長嶺南)の外壁補修の現場責任者を任せられ、心遣いと粘り強さで男性作業員をまとめている27歳の一日を辿った。

(野田 春)

「きょうはクレールでの資材搬出もあります。安全第一を心掛けてください。ドクターヘリ発着時は作業中断をお願いします」。

午前8時、熊本赤十字病院敷地内にある仮設工事事務所の横。身長150・5センチの小柄な女性があくまに男性作業員30人ほどに相対し、張りのある声で呼び掛けた。

この小町は、建設会社「岩永組」(中央区南熊本)工事部の岡原香織さん(27)。同病院関連の補修工事と2年前から携わり、今年5月に始まった本館外壁補修で現場責任を務める。工事の工程管理や協力会社作業員の安全管理などが主な仕事だ。

鹿児島市出身。「中学生の時から、新聞ラッシュに載っている家やマンションの間取り図を見るのが楽しかった」という岡原さんは、設計の仕事がしたく

て地元の高校から崇城大工学部建築学科に進学した。インターンシップで「いろんな職人たちが現場で一つの建物を作っていることに魅力を感じて」、建設会社に就職したという。

この日も午前7時半前には病院に着き、クレールの設置作業を見守った後に朝礼。その後、本館の東、西、中央の3棟それぞれで補修現場に何度も足を運び、夕方まで作業の進み具合などを確認した。各棟の屋上まで組まれた足場を登ると、作業員が「岡ちゃん」「香織ちゃん」と親しげに声を掛けてくる。岡原さんは笑顔を返しつつも、仕上がり状況のチェックや注に妥協はない。「みんなプロだから、自分で考えて意見を言っていない」と。笑顔だけでは伝わってくれないです」と口元を引き締めた。

県建設業協会が8月に加盟する28社を対象に実施した調査では、県内で建設現場や設計などで働く女性は112人という。岩永組でも、女性社員は岡原さんだけだった工事部に今春、2人加わった。とはいえ、現場はまだまだ「男社会」。岡原さんは夏場、汗だくになっても服を着替える場所がなく、コンビを

利用した際、トイレで着替えたこともあるという。

そんな環境の中、岡原さんの仕事づくりに信頼を寄せる人も少なくない。

同じ現場で防水を担当する内村真さん(34)もその一人。昨年、水漏れが止まらない箇所があり、工事が難航。その際、岡原さんが建物の設計図面を持ち出して構造を夜遅くまでかかって分析し、原因を突き止めたという。「専門の私が諦めかけていたことを彼女が粘って解決してくれて、信頼感が増した」。

現場で岡原さんの補佐役をする河野祐一(41)さんが事務所で「何より家族のために、予防対策の徹底を」と書かれたフリオレットを指さした。昨年冬にインフルエンザが流行した時、岡原さんが掲げたものだ。河野さんは「心遣いにジーン」と感じた。

「完成した時の達成感は何にも替えない」という岡原さん。夢は、自ら設計し、信頼する職人たちが一緒に自宅を建てることだ。

◇おはら・かおり 2010年4月に岩永組入社。熊本市西区在住。独身。趣味はドライブと映画鑑賞。

岡原さんの一日

5:50	起床、朝食
7:20	現場の熊本赤十字病院に着き、クレーンの設置作業を見守る
8:00	作業員と一緒にラジオ体操の後、朝礼
8:30	作業現場の見回り
9:30	事務作業のため事務所へ
10:30	再び作業現場の見回り
12:00	事務所内で昼食の弁当を食べる
13:00	職長会議で、午前中の作業の進み具合と、午後からの作業手順を確認
13:30	作業現場の見回りや事務作業
19:30	事務所の戸締まりや掃除して作業終了
20:00	帰宅
21:30	大学時代の友人8人と街で飲食。深夜に帰宅、就寝

会社概要

◇岩永組 1910年、三角町(現・宇城市)で創業。47年に本社を現在地へ移転し、株式会社。福岡市にも営業所を持つ。住宅、マ

ンションの建築からリフォーム、トンネル工事など土木分野まで手掛ける。熊本城本丸御殿や城彩苑の建築にもJV(共同企業体)のメンバーとして参画した。岩永一宏社長。社員93人。売上高51億5000万円(2014年9月期)

クレーン作業の打ち合わせをする岡原香織さん＝東区長嶺南の熊本赤十字病院

Worker